

個別の教育支援計画

学校名	〇〇〇立〇〇〇学校
児童生徒氏名	〇〇 〇〇

学年	1年	2年	年	年	年	年
組	〇組	〇組				組
作成・更新 保護者確認日	令和〇年 4月 〇日	令和〇年 4月 〇日	月 日	月 日	月 日	年 月 日
評価・引継ぎ事項 保護者確認日	令和〇年 3月 〇日	令和〇年 3月 〇日	年	年	年	年 月 日
学校長氏名	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇				
作成者氏名	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇				
保護者確認 (サイン又は押印)	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇				

基礎情報、支援目標や支援内容などを保護者と確認した日を記入してください。

基礎情報、評価や引継ぎ事項などを保護者と確認した日を記入してください。

支援目標や支援内容などを確認していただいた際に、署名をもらいます。(押印可)

小6、中3などでは、進学先等に引き継ぐことを説明し、同意欄に署名をもらいます。
※転校の際には、可能な限り現状の評価や引継ぎ事項を記載し、転学先に引き継ぐことを説明し、同意欄に署名をもらいます。

個別の教育支援計画を進学先等に送付することに同意します。

年 月 日

保護者氏名

参考様式になります。必要に応じて、項目を追加・修正してください。

参考様式
(小・中学校、高等学校用)

個別の教育支援計画 I (基礎情報)

ふりがな	△△ △△		性別	男	生年月日	○年 ○月 ○日
氏名	○○ ○○					
ふりがな	△△ △△		住所	〒◇◇◇◇-◇◇◇◇		
保護者氏名	○○ ○○			○○市○○町○○◇◇◇◇番地◇		
			電話	◇◇◇◇-◇◇◇◇-◇◇◇◇◇		
家族構成	続柄	氏名		続柄	氏名	
	父	○○ ○○				
	母	○○ ○○				
	妹	○○ ○○				
備考						

【基礎情報の作成にあたって】
 基礎情報については、**すべての項目を記入する必要はありません。**情報については、**随時加筆・更新**をお願いします。
 また、基礎情報について、保護者が「かけはし」を作成している場合、**保護者了承のもと、「かけはし」の基礎情報を転記してもかまいません。**

訓練歴 相談歴 検診歴 関係機関等	年月日	支援機関名	支援者名	様態像(障害名・病名) 年月日・病院名・医師名
	○.8.3	発達障害者支援センターアルプスかがわ(相談)	○○○○	・離席や忘れ物が多く、集中して物事に取り組むことが難しい(ADHD)(○.8.26) ◇◇◇◇病院、◇◇医師 ・不注意に加え、学習内容の定着が難しく、特に漢字の読み書きや作文には苦手意識を強くもっている。(ADHD、LD)(○.9.27) ○○○○病院、△△医師 医療機関を受診し、診断を受けた場合はその内容を記入する。
	○.11.2~ ○.3.5	○○病院 言語聴覚療法	○○○○	
	○.4.20	相談支援事業所 ○○	○○○○	
	○.7.20	放課後等デイサービス ○○	○○○○	
	福祉サービス事業所を利用している場合や医療機関で理学療法、作業療法、言語聴覚療法などを受けている場合は、開始年月日と支援機関名、担当者を記入する。			医療歴 年月日 受診医療機関名 ○.8.26 ◇◇◇◇病院・◇◇医師 (●●●を服用 朝1/2) ○.6.9 ◇◇◇◇病院・◇◇医師 (●●●を服用 朝1/2 昼1/2) ○.4.8 ◇◇◇◇病院・◇◇医師 (●●●を服用 朝1 昼1)
検査結果等	年月日	検査結果等	機関名	医療機関の受診歴について記入する。服薬している場合は、処方内容について記入する。
	○.8.1	WISC-V(FSIQ100)	○○病院	
	発達検査等の検査を受けた年月日、検査名と結果、検査を受けた機関名を記入する。			
手帳	手帳の種類	有・無	等級等	交付年月日
	療育手帳	無		各種手帳の所有の有無、等級や交付年月日を記入する。更新があった場合は、随時修正する。
	身体障害者手帳	無		
	精神障害者保健福祉手帳	有	3級	

教育諸機関在籍歴	期間	校園(所)	学びの場
	○年4月 ~ ○年3月	□□こども園	
	○年4月 ~ ○年3月	△△△立○○小学校	特別支援学級
	○年4月 ~	△△△立○○小学校	通級による指導
	~		特別支援学級から通常の学級など、学びの場が変更した場合や通級による指導を受けた期間などが分かるように記入する。

参考様式になります。必要に応じて、項目を追加・修正してください。

参考様式
(小・中学校、高等学校用)

個別の教育支援計画Ⅱ（支援目標や支援内容等）

作成・更新年月日	年 月 日	支援内容・関係者等の変更や追加があった場合は、随時更新します。	
学年・組	年 組	児童・生徒氏名	

将来や現在の生活の願い(卒業後や2～3年後の姿)	
本人の願い	・本人、保護者の願いは、支援目標・内容を考える時に大切な情報です。懇談や日常生活等の中で、聞き取ります。
保護者の願い	

現在の実態	
学習面	・困難な面だけでなく、得意な面やよいところも把握し、支援目標や支援内容に生かします。 ・担任だけの情報でなく、関わりのある人から情報を集め、できるだけ多角的に実態を捉えるようにします。 ・最初から全ての項目を記入する必要はありません。把握している項目から記入してください。
生活・行動面	
社会性・情緒面	
身体面・健康面	

支援目標	・本人の将来を見据え、家庭や関係機関と連携して2～3年程度で達成を目指す目標を設定します。 ・毎年、支援目標を見直します。達成できた場合、次の目標を設定します。
------	---

	合理的配慮を含む支援の内容	評価・引継ぎ事項
学校	・目標を達成するために必要な支援内容を設定し、役割分担を明確にします。 ・家庭や関係機関については、本人・保護者からの聞き取りや、(本人・保護者の同意を得た上で)関係機関と連携を取りながら記入します。	・支援が子供にとって有効であったかどうかを評価し、今後の支援の方向性などの引継ぎ事項を記入します。 ・家庭や関係機関については、本人・保護者からの聞き取りや、(本人・保護者の同意を得た上で)関係機関と連携を取りながら記入します。
家庭		
関係機関 (福祉・医療・労働等)		

・「評価・引継ぎ事項」以外は、年度初めに作成し、本人・保護者と合意形成を行います。
・保護者には、作成時・評価時にコピーを渡し、家庭で保管してもらいます。

記入例（通常の学級 小学校1年生）

参考様式
(小・中学校、高等学校用)

個別の教育支援計画II（支援目標や支援内容等）

作成・更新年月日	○年5月1日		
学年・組	1年○組	児童・生徒氏名	○○ ○○

将来や現在の生活の願い(卒業後や2～3年後の姿)	
本人の願い	・友だちとなかよく遊びたい。
保護者の願い	・友だちと関わって遊べるようになってほしい。 ・自分の気持ちが伝えられるようになってほしい。

現在の実態	
学習面	
生活・行動面	・休み時間には、一人で遊んでいることが多い。 ・嫌なことがあると言葉にできず、泣いてしまうことがある。
社会性・情緒面	・話しかけられたときに、どう返事をしているかわからないことがある。 ・友だちに話しかけることや、自分の気持ちを伝えることが難しい。 ・指さしやジェスチャーがあると、指示が伝わりやすい。
身体面・健康面	

支援目標	・うれしかったことやつらかったことを言葉にして伝えながら、友だち2～3人の遊びやグループ学習に参加することができる。	
	合理的配慮を含む支援の内容	評価・引継ぎ事項
学校	・本人が困っているときに声をかけて気持ちを聞き、どのように伝えたり相談したらよいかを一緒に考える。 ・グループ学習では、教師や支援員が友だちへの働きかけを促す。	・嫌なことがあると「やめて」、友達と遊びたい時は「遊ぼう」と、教師や支援員と一緒に伝えることが増えてきた。また、家庭でも、呼ばれたときに、返事をすることができるようになってきている。今後も本人が自分から友だちに関わるのができたときには、賞賛する等の支援を続けていく。
家庭	・名前を呼ばれたときには、言葉や身振りで返事ができるように言葉かけをする。また、「びっくりしたね」「もっと遊びたいよね」などの本人の気持ちを代弁したり、短い言葉で相手にどう伝えたらよいか示したりする。	
関係機関 (福祉・医療・労働等)	<div style="border: 2px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; display: inline-block;"> 「評価・引継ぎ事項」は年度末に記入します。その際、「作成・更新年月日」も更新します。 </div>	

記入例（通級による指導 小学校4年生）

参考様式
(小・中学校、高等学校用)

個別の教育支援計画II（支援目標や支援内容等）

作成・更新年月日	○年5月1日		
学年・組	4年○組	児童・生徒氏名	○○ ○○

将来や現在の生活の願い(卒業後や2～3年後の姿)	
本人の願い	・イライラして友だちとけんかすることを減らしたい。 ・漢字が書けるようになりたい。
保護者の願い	・感情のコントロールができるようになってほしい。 ・もっと、漢字を覚えて書けるようになってほしい。

現在の実態	
学習面	・漢字を覚えたり書いたりすることが苦手で、2年生までの漢字が未習熟である。 ・足し算、引き算は、指を使いながら計算することができる。 ・理科の実験や図工が得意である。
生活・行動面	・手伝いが好きで、進んで係の仕事をする事ができる。 ・休み時間は、外でドッジボールをしたり、室内でパズルやお絵描きをして過ごすことが多い。
社会性・情緒面	・できないことや、思い通りにならないことがあると感情的になってしまい、学習や遊びが長続きしないことがある。
身体面・健康面	

支援目標	①自分の気持ちを言葉で伝えたり、相談したりすることができる。 ②自分に合った方法で漢字の学習に取り組むことができる。
------	---

	合理的配慮を含む支援の内容	評価・引継ぎ事項
学校	①通級指導教室でのソーシャルスキルトレーニングを通して、気持ちの表し方の学習を行い、通常の学級においても生かせるようにする。 ②漢字を書くことが負担にならないように、書く量の調整を行う。(通常の学級) 漢字パズルやICT機器を活用することで、漢字をパーツごとに覚えられるようにする。(通級による指導)	①通級指導教室でのソーシャルスキルトレーニングを通して、通常の学級や家庭でも少しずつ言葉で自分の気持ちを伝えられるようになってきた。今後も、いろいろな場面を想定した学習を継続していく。 ②漢字パズルを活用することで覚えられる漢字が増えてきた。漢字の筆順を動画で確認できるアプリケーションが有効で、宿題でも役立つ。今後も家庭と情報共有し、漢字の学習に取り組めるようにする。また、本人と相談しながら、書く量の調整を行っていく。
家庭	①通級指導教室で学習したことや学校での出来事を本人と話し合い、自分の気持ちを言葉で伝えたり、誰かに相談したりすることができた場面があれば賞賛する。 ②学校で使用している漢字の教材を家庭でも活用しながら宿題や学習に取り組むようにする。	
関係機関 (福祉・医療・労働等)		

「評価・引継ぎ事項」は年度末に記入します。その際、「作成・更新年月日」も更新します。

記入例（特別支援学級 中学校 1年生）

参考様式
(小・中学校、高等学校用)

個別の教育支援計画Ⅱ（支援目標や支援内容等）

作成・更新年月日	○年 5月 1日		
学年・組	1年 ○組	児童・生徒氏名	○○ ○○

将来や現在の生活の願い(卒業後や2～3年後の姿)	
本人の願い	勉強が分かるようになりたい。友だちと仲良くしたい。
保護者の願い	将来、自立した生活ができるようになってほしい。進路については、まだ考え中である。

現在の実態	
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生までの漢字の読み書きができるが、文章の読み取りや作文を書くことは苦手である。 ・足し算・引き算は、指を使って計算することができるが、文章題になると立式が難しい。 ・体を動かすことは好きで、保健体育の学習には意欲的に取り組む。
生活・行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や家では、外で遊ぶことを好み、友達と遊ぶことができている。 ・毎日、自分から挨拶をすることができる。 ・清掃や作業等の活動に、まじめに取り組むことができる。 ・洗顔、歯磨き、服装等身だしなみを整えることへの関心が低く、できていないことが多い。
社会性・情緒面	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話聞いていても内容を理解できていないことがあり、行動が不十分なことがある。 ・自分のしたいことを譲れず、思いを押し通してしまうのでトラブルになることがある。 ・誰にでも親しみを込めて話しかけることができる。
身体面・健康面	<ul style="list-style-type: none"> ・てんかんがある。服薬によりコントロールできており、小学校中学年頃から発作はない。 ・温度に適した衣服の調整が難しく、声かけが必要である。

支援目標	<ol style="list-style-type: none"> ①基礎的な学習内容を身に付けることができる。 ②生活習慣の形成(身だしなみ、持ち物の管理等)に向け、できることを増やす。 ③他者への関わりへの意欲を大切にしながら、適切な関わりを増やす。
------	---

合理的配慮を含む支援の内容		評価・引継ぎ事項
学校	<ol style="list-style-type: none"> ①本人や家庭と相談しながら、学習内容の変更・調整を行う。具体的な場面を設定し学習を進めていく。 ②家庭と連携し、取り組みやすい課題を選んで、本人に必要なことや手順等を視覚的に示して理解できるようにする。 ③自立活動の時間を中心に、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けることができるように指導する。関わろうとした姿を認めながら、適切な関わりを増やしていくことができるように支援する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①具体的な場面を設定して学習を進めることで、例えば、概数の学習を生かして買い物に取り組むことができた。また、電卓の活用も有効であった。次年度も、本人と保護者と相談しながら、学習内容を調整していく。 ②学校や家庭で取り組むことで、できることが増えてきた。取り組みやすさを考えて課題を選び、本人と相談して進めてく。
家庭	<ol style="list-style-type: none"> ②学校で作成したチェックシートを使って家庭でも取り組む。できた時には、しっかり褒めるようにする。 ③学校から報告を受けた良かった関わりを家庭で褒めるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> ③学校、家庭、デイサービスで褒めたことにより、適切な関わりが繰り返し見られるようになった。
関係機関 (福祉・医療・労働等)	<ol style="list-style-type: none"> ①○○デイサービスでは、学習課題に自分で取り組めるように支援する。 ②○○デイサービスでは、身だしなみ等、整えようとしたことやできていることを個別に褒める。 ③○○デイサービスでは、適切な関わりに対して、しっかり褒めるようにする。 	<p>「評価・引継ぎ事項」は年度末に記入します。その際、「作成・更新年月日」も更新します。</p>